

第1分科会 報告 (伊賀副会長)

第7派は減少傾向にあるとはいえ、日々の感染症対策と学びの保障でご苦労されていることと思う。私からは、8月5日の各課懇談会のうち、第1分科会「新型コロナウイルス感染症対策と学びの保障」について報告する。

はじめに道小対策部長の釧路市立湖畔小学校 秦校長と、道中対策部長の岩見沢市立栗沢中学校 伊藤校長から提言があった。お二人からは、「学級閉鎖基準の緩和や報告様式の簡略化」「教員業務支援員及び学習支援員の配置」「児童生徒への端末整備」などの成果とともに、「マスク着脱の指導」の難しさや、「給食時の黙食」「合唱や調理実習など感染リスクの高い活動」「ICT 端末を学校や家庭で有効に活用する環境」への懸念などが話された。また、道教委に対する質問として「ハード面とソフト面の環境整備」や端末持ち帰りのための「家庭のネット環境支援」、ICT 支援員や GIGA スクールサポーターの配置など「教員へのサポート体制の充実」、「家庭における情報モラル教育への懸念」などをあげた。

これに対して道教委からは、「マスクの着脱については動画やリーフレットの作成で、苦情が減った」こと、「黙食については第7波が終息後、見直したい」こと、「全数調査をやめるという国の動きを踏まえて対応したい」ことなどの回答があった。また、ICT のハード・ソフトの両面からの整備については、十分な通信環境を保障するため、国や市町村に働きかけていくという話をいただいた。持ち帰りのためのルーター貸し出しなどの普及についても市町村に啓発していくとのこと。また、情報モラルは学校と保護者が共通理解することが大切ということで、「GIGA ワールド通信」などの発行を通して働きかけていくとのこと。

後半は道小対策部幹事 滝川市立滝川第三小学校 西田校長 と、道中対策部幹事 深川市立一巳中学校 坂本校長から提言の提言があった。ICT の授業への活用を事例やデータをもとに示しながら、「閉鎖時のオンライン学習と授業時数の今後の見通し」「人材の確保について」「ICT を活用した学習活動の姿」「主体的・対話的で深い学びへの ICT の寄与」などについて質問した。道教委からは、閉鎖時のオンライン授業は、今後も別記として要録に記載することや、人材の確保に向けて、教員の魅力を発信したり、採用試験を受けやすい環境を作ったりすること、失効した教員免許を申請により復活できることを周知していくことなどが話された。また、学習支援ポータルサイトの授業モデルや研修プログラムのコンテンツを紹介することで教員のスキルを向上し、授業前やまとめでクラウドを活用するなど、今まで紙や黒板で工夫してきたこと

を、ICT と効率的かつ効果的にベストミックスするような授業改善を目指していく必要性が話された。さらに、「児童生徒の情報活用能力」や「教員の ICT 活用能力」を育成し、日常的に ICT を活用するためにやる気を高める指導助言が必要であると助言をいただいた。

四本の提言には共感することが多く、それに対する道教委の力強い支援も感じたところであり。校長としては市町村各校の学校の横の連携を強化して、成果や課題を共有し、地教委としっかり連携しながら ICT の活用を進めていきたいと感じた。